

平成 23 事業年度業務実績報告書添付資料

独立行政法人海技教育機構

目 次

資料 1 : 平成 23 年度人事交流の実績	1
資料 2 : 平成 23 年度海技士国家試験の実績	1
資料 3 : 各校の資格取得に関する取組	2
資料 4 : 寮生活による指導の概要	3
資料 5 : 平成 23 年度寮生活アンケートの結果	5
資料 6 : 保護者会等の開催について	7
資料 7 : 平成 23 年度保護者アンケートの結果	8
資料 8 : 平成 23 年度海事関連企業への就職率	10
資料 9 : 就職に関する取組	11
資料 10 : 意見交換会の実施	12
資料 11 : 平成 23 年度教職員研修の実績	13
資料 12 : 本科及び専修科への応募状況	14
資料 13 : 各校の広報活動に関する取組	15
資料 14 : 平成 23 年度広報活動の実績	16
資料 15 : 平成 23 年度研究項目の一覧	17
資料 16 : 平成 23 年度研究発表の一覧	18
資料 17 : 平成 23 年度委員等派遣の実績	19
資料 18 : 平成 23 年度ホームページアクセス数	20
資料 19 : 宮古校被災への対応状況	21
資料 20 : 宮古校仮校舎の新聞記事	22

資料1

平成23年度 人事交流の実績

◎ 人事交流実績計 16名

受け入れ元	部署等	人数
国土交通省海事局	運航労務課	1名
国土交通省海事局	海技課	2名
国土交通省近畿運輸局	海事振興部船舶産業課	1名
独立行政法人航海訓練所	二等航海士	1名
海運企業	船舶運航職員	3名
計		8名

派遣先	部署等	人数
国土交通省海事局	海技課	2名
国土交通省海事局	大臣官房付	1名
国土交通省海事局	運航労務課	1名
国土交通省近畿運輸局	総務部人事課	1名
海運企業	船舶運航職員	3名
計		8名

資料2

平成23年度海技士国家試験の実績

校名 (定員) ^{※1}	卒業 者 数	乗進 船学 実習 者 科数	受 験 者 総 数	合格者			合格率 ^{※2}		
				① 航海 合格	② 機 関 合格	③ 航 海 ・ 機 関 合格	① 航 海 合格	② 機 関 合格	③ 航 海 ・ 機 関 合格
小樽校(30)	32名	12名	11名	9名	11名	9名	81.8%	100.0%	81.8%
館山校(40)	38名	21名	21名	19名	17名	16名	90.5%	81.0%	76.2%
唐津校(40)	40名	28名	28名	24名	25名	22名	85.7%	89.3%	78.6%
口之津校(30)	25名	19名	19名	15名	17名	14名	78.9%	89.5%	73.7%
本科合計	135名	80名	79名	67名	70名	61名	84.8%	88.6%	77.2%
宮古校(40)	43名	—	43名	43名	41名	41名	100.0%	95.3%	95.3%
清水校(110)	108名	—	108名	108名	103名	103名	100.0%	95.4%	95.4%
波方校(90)	92名	—	92名	87名	91名	87名	94.6%	98.9%	94.6%
専修科合計	243名	—	243名	238名	235名	231名	97.9%	96.7%	95.1%

※1 対象となる生徒・学生の入学時の定員数

※2 本科校合格率は平成23年度乗船実習科修了者が対象

各校の資格取得に関する取組

資格取得のための取組

1. 口述試験対策補講の実施

- ・口述模擬試験回数を増やすことで、**口述形式に慣れる**とともに受験意欲が向上
- ・試験問題の**傾向と対策を記載**した速報版を作成 (小樽校)
- ・試験直前まで質問と解説を可能とするため、試験会場へ教員を派遣 (小樽校)
- ・メールでの質問を許可し、質問に細かく対応 (館山校)
- ・講義で**好感度アップに繋がる方法(大きな声で明確に答える)**等を指導 (口之津校)
- ・模擬試験を小グループに分け、**全教員で実施** (宮古校)
- ・国家試験の期間中、**毎日問題の聞き取り調査を実施**し、「合格勉強会」と称して内容を解説 (清水校)
- ・受験まで希望者には在寮期間延長の措置をとり、**試験直前まで指導** (海大)
- ・**卒業から受験までの期間短縮**で学生の**集中力の維持**を図り、卒業後に臨時口述試験を設定・実施 (海大)

2. 教材の工夫

- ・予想試験範囲すべてを5日間の講習で網羅 (館山校)
- ・**1日の講習内容を5ページにまとめた教材**を作成し、毎日の学習量を明確化 (館山校)
- ・問題集を改訂し、卒業式に配布することで実習期間を通して日常的に学習が可能 (唐津校)
- ・学校作成テキストと口述試験問題を関連づけ、**最近の出題傾向を説明** (口之津校)
- ・問題集を改訂し、過去の問題を明確化するため出題状況一覧表を添付した結果、**メリハリのある学習**が実現 (清水校)
- ・過去10年の口述試験問題を収集・整理して教材として使用 (海大)

3. 在校生への対策

- ・**生徒の理解度を個別・設問別で把握**をし、講習後に生徒ごとの弱点についての特別な補講を実施 (館山校)
- ・補講の実施により、生徒が**絶対合格したい**と思うようになるとともに、**全体がレベルアップ** (館山校)
- ・1年生の専門課程不良者へ定期試験前に補講を実施し、必要な基礎学力を習得 (唐津校)
- ・積極的な航機両方の免許取得の意識付けを実施 (唐津校)
- ・普段の授業に国家試験関連問題を取り入れるよう**授業内容を工夫** (口之津校)
- ・上級試験対策講座を学年を限定せずに実施 (清水校)

4. 学習意欲の向上

- ・内航船員教育支援事業の一環として、**生徒への目標を明確にさせる**ため講話を開催 (唐津校)
- ・**卒業生が生徒へ経験談の講話**を行い、資格取得意欲が向上 (唐津校)
- ・**学習意欲増進のため、海事施設見学**を実施 (唐津校)

寮生活による指導の概要

1. 寮における資質教育

◇ 寮生活の概要

- 原則全寮制 (参考: 24年度の入寮率 本科89.2%、専修科96.7%、全体93.2%)
- 親元を離れ、狭隘な寮施設内での団体生活
- 日課に従った規則正しい生活
- 門限、消灯、起床時刻等の制約
- 当直生徒・学生(2名程度・交代制)が日課遂行(寮内放送、巡視等)
- 寮務委員会等により生徒・学生が寮運営(施設整備、給食、福利厚生等)に参加
- 掃除、洗濯、ゴミ処理、厚生物品補充等を自分で行う
- 寮運営を通じた上級生・下級生の関係構築(とくに本科)
- 当直教員(寮)、当直補助事務職員(本館)が、交替で1名ずつ入直



◇ 寮生活の目的

「団体生活を通じて、友愛、協調並びに自主の精神を培い、責任と規律ある生活の習慣を体得させ、**船員として必要な資質を養う**」
 (海技教育機構 海上技術学校及び海上技術短期大学校 寮の管理・運営規準 第7条)



2. 設備状況

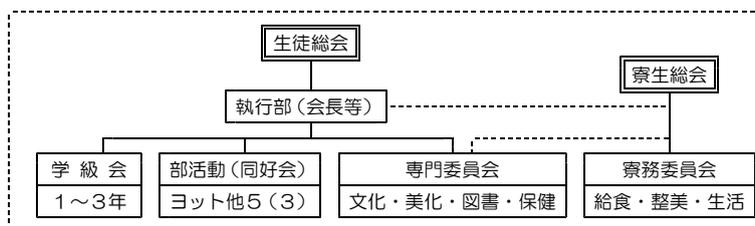
本科校	小樽1棟(男)	館山1棟(男女)	唐津1棟(男)	口之津2棟(男女)
専修科校	宮古1棟(男女)	清水2棟(男女)	波方1棟(男)	

○いずれも学校の敷地内に設置



3. 生徒・学生の寮運営組織（本高校の例）

○ほぼ全員が寮生のため、生徒会活動の主要な部分として寮の運営を行う体制を構築



4. 寮日課

本高校の例（平日）		専修科校の例（平日）	
7:00	起床	6:50	起床
7:00~7:20	点呼、体操	7:00~7:10	点呼、体操
7:20~8:00	朝食	7:10~7:30	朝掃除
8:00~8:15	寮室清掃	7:30~8:00	朝食
8:20	寮閉鎖	8:20	寮閉鎖
授業、 昼食 、部活動等		授業、 昼食 、サークル活動等	
17:20~19:00	夕食	18:00~18:30	夕食
17:20~19:20	入浴	18:15~21:15	入浴
放課後~19:25	外出許可	放課後~21:45	外出許可
19:30~19:55	点呼、清掃		
20:00~21:00	自習	21:50	自室等清掃
22:30(23:00)	巡検(消灯)	22:00(23:30)	巡検(消灯)



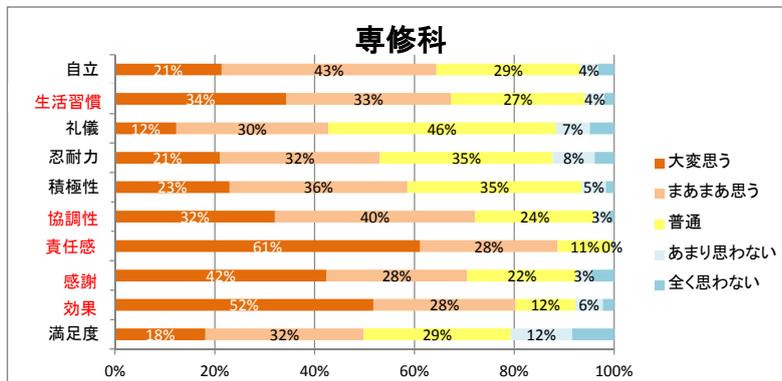
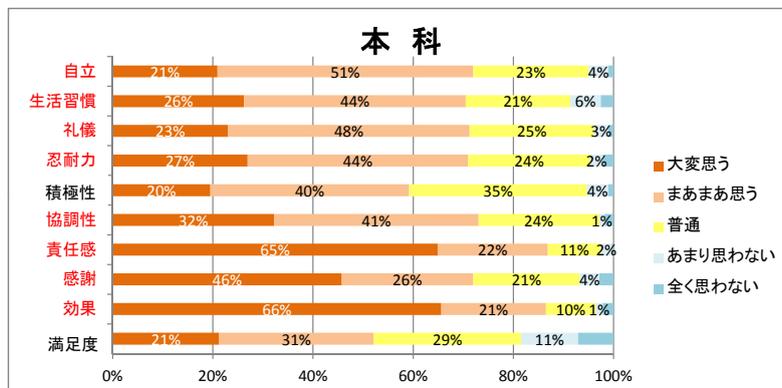
平成23年度 寮生活アンケート結果

1. 実施時期：平成23年6月～平成24年2月
2. 回答者数：（本科）1年生 124名、2年生 98名、3年生 60名
（専修科）1年生 230名、2年生 79名

3. アンケート結果

(1) 設問及び結果グラフ

- 問1(自立)： ○寮で生活するようになって、何でも自分でできるようになりましたか？
- 問2(生活習慣)： ○寮で生活するようになって、規則正しい生活をするようになりましたか？
- 問3(礼儀)： ○寮で生活するようになって、礼儀正しくなりましたか？
- 問4(忍耐力)： ○寮で生活するようになって、がまん強くなったと思いますか？
- 問5(積極性)： ○寮では、当番や係の仕事を進んでやっていますか？
- 問6(協調性)： ○寮では、他の生徒(学生)と協力し、仲良くするようにしていますか？
- 問7(責任感)： ○寮では、時分の仕事をきちんとしないと、周囲に迷惑がかかると思いますか？
- 問8(感謝)： ○寮で生活するようになって、家族のありがたさが分かるようになりましたか？
- 問9(効果)： ○寮での生活の経験は、自分の将来に役に立つと思いますか？
- 問10(満足度)： ○総合的に見て、寮での生活に満足していますか？



※ 赤字は「大変思う」+「まあまあ思う」が70%以上の項目

(2)寮生活に関する自由意見

① 良い点	人数
・規則正しい生活ができる。	18名
・友達がたくさんでき仲良くなれる。	13名
・将来自分のためになる。	8名
・親のありがたさが分かる。	5名
・何でも自分でできるようになった。	3名

② 悪い点	人数
・一日が時間に縛られている。	8名
・食事や洗濯等で順番待ちをしなければならない。	3名
・部屋が狭い。	2名

③ 改善して欲しいこと	人数	
日課関係	・消灯や起床時間を遅くしてほしい。	31名
	・自習時間の運用の仕方を見直してほしい。	4名
	・帰寮時間が早いので遅くしてほしい。	4名
	・点呼や巡検の時間や方法を見直してほしい。	4名
	・風呂や食事時間を遅くしてほしい。	3名
給食関係	・もっと美味しくしてほしい。	21名
	・メニューをもっと増やしてほしい。	12名
設備関係	・朝食のメニューを見直してほしい。	8名
	・洗濯機、乾燥機の増設や新替をしてほしい。	18名
	・シャワー室を使えるようにしてほしい。	10名
	・電子レンジ、トースターなどの設置、増設をしてほしい。	8名
	・夏暑いので冷房を設置してほしい。	5名
	・ベットが古いので新しくしてほしい。	5名
	・運動のできる部屋を作ってほしい。	4名
・自販機を増設してほしい。	3名	

④ その他	人数
・マナーの悪い人がいる。	17名
・冷暖房が完備され、寮の生活環境がかなり改善された。	5名
・寮内が汚いのできれいに使ってほしい。	5名
・規則処分を強化してほしい。	3名

4. 結果に対する各校の考察(抜粋)

・大半の生徒が寮の効果を実感している。
・満足度が一番低くなったが、様々な制約にも耐える力を身に付けさせることも大切である。
・先輩後輩のつきあい方、挨拶の重要性を身にしみて感じている。(本科)
・満足度と忍耐力はやや低い値であったが、概ね寮生活は機能していると思われる。(専修科)
・時間が決められている窮屈さもあるが、一方で規則正しい生活ができるという意見もある。
・日課関係については、指導上の問題点を見ながら改善する必要がある。
・給食関係については、給食担当者、隋い長(外部委託業者)との会議で検討する必要がある。
・船員としての資質を養うために、今後も寮生活アンケートを続けて行く必要があると思われる。

5. 考察を踏まえた各校の改善状況(抜粋)

・今後、船員養成機関における寮生活の意義目的等を説明し、理解を促す。
・寮生活の目的等について、プレゼンソフトを使用して全生徒に対し説明、指導した。
・生徒会等の活動を通じて、自らの寮を改善しようとする意識を高めるよう指導する。
・生徒の責任感及び自主性を育成する観点から、当直生徒による5分前の放送を追加する。
・団体生活を実践することにより、礼儀、挨拶などしかりできるよう指導していく。
・教員に対する言葉使いや敬礼のやり方から指導を強化し、スムーズに行えるようになった。
・寮内生活の自己責任について、重点的な指導を行う。
・習慣付けという観点から消灯、起床時間は変更せず、しっかりと身につけるよう指導していく。
・毎朝の点呼や掃除巡回を強化し、積極性を養う。
・掃除の指導を徹底する。また、居室用のゴミ箱にもゴミ袋を被せるなど衛生面に配慮する。
・暖房中の室温や浴室の温水温度を計測し、必要に応じて温水流量を調整して全体を底上げした。
・夏の暑さ対策については、服正の工夫に加え、今後空調の設備について検討していく。
・給食については、職員及び業者との会議を開催し、順調に機能している。
・学校独自のアンケートを行い、問題根絶のため教員一丸となって指導した。

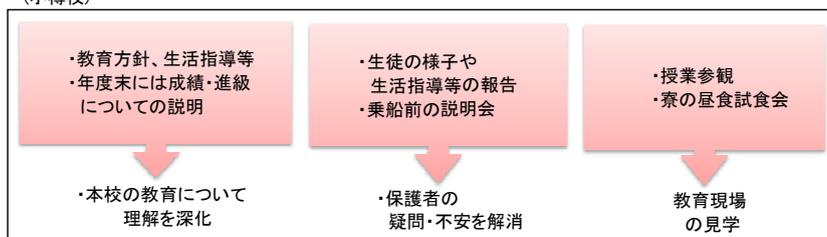
保護者会等の開催について

1. 本高校保護者会開催実績

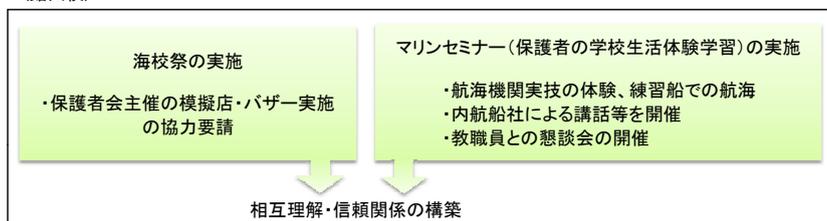
小樽校	館山校	唐津校	口之津校	合計
5回	3回	7回	5回	20回

2. 保護者会における取組と目的

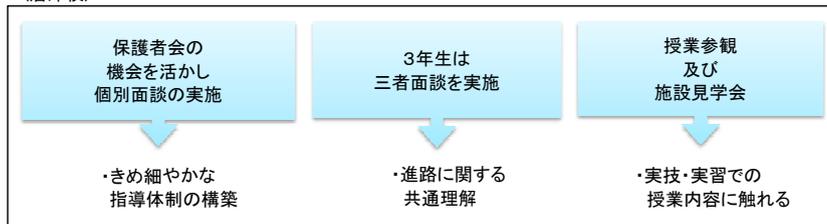
(小樽校)



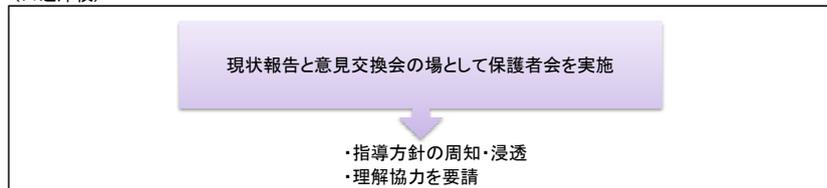
(館山校)



(唐津校)



(口之津校)



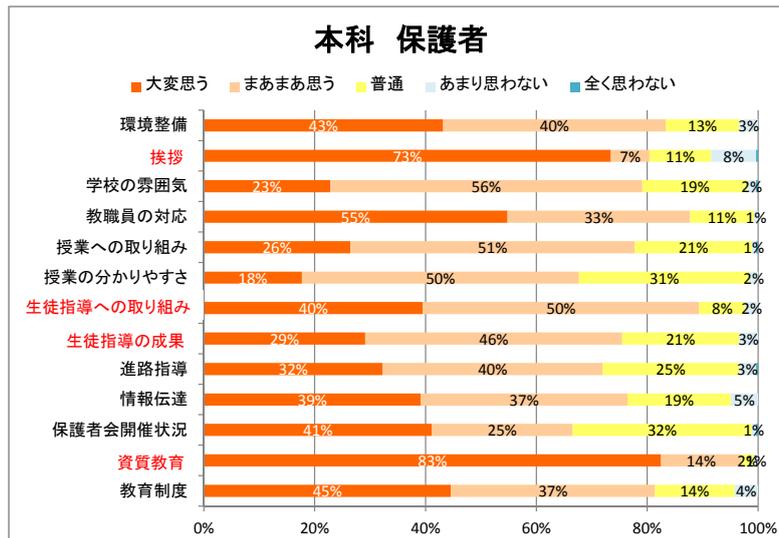
平成23年度 保護者アンケート結果

1. 実施時期：平成23年6月～平成24年2月
2. 回答者数：（本科）1年生 96名、2年生 84名、3年生 84名

3. アンケート結果

(1) 設問及び結果グラフ

- 問1(環境整備)： ○学校は清掃が行き届き、よく整備されていると感じますか。
- 問2(挨拶)： ○生徒は気持ちよい挨拶ができていますと感じますか。
- 問3(学校の雰囲気)： ○生徒の表情から学校の雰囲気はよいと感じますか。
- 問4(教職員の対応)： ○教職員の対応は誠実で、信頼できると感じますか。
- 問5(授業への取り組み)： ○教員は授業に熱心に取り組んでいると感じますか。
- 問6(授業の分かりやすさ)： ○教員は分かりやすい授業をしていると思われませんか。
- 問7(生徒指導への取り組み)： ○学校は、生徒指導に熱心に取り組んでいると感じますか。
- 問8(生徒指導の成果)： ○学校の生徒指導の取り組みは、成果が表れていると感じますか。
- 問9(進路指導)： ○就職や進学に関する情報提供や指導が、適切に行われていると思いませんか。
- 問10(情報伝達)： ○学校からの情報は、学級通信やHP等により、適切に家庭へ伝えられていると思いませんか。
- 問11(保護者会開催状況)： ○保護者会や参観日の開催回数や内容に満足していますか。
- 問12(資質教育)： ○寮生活や実習実技など**在学中の経験が、社会に出ていく上で役に立つと思いませんか。**
- 問13(教育制度)： ○学校は、海技士資格、高卒同等資格などの各種資格取得制度について、その重要性の説明や補講などによる指導に努めていると思いませんか。



※ 赤字は資質教育に関する項目

(2)自由記載欄の意見

① 入学後の子どもの変化

	人数
・自立心ができた。	36名
・たくましくなった。	24名
・身の回りのことを自分で行うようになり、親への感謝の気持ちが生まれた。	16名
・挨拶ができるようになった。	12名
・積極的な面がでてきた。	11名
・他の人に対して気使いや思いやりができるようになってきた。	10名

② 学校に期待していることや改善して欲しいこと

	人数
・満足している。今後ともよろしく願いたい。	15名
・就職、進学指導に関してより一層力を入れてほしい。	13名
・教官方のご指導に大変感謝している。	11名
・喫煙や飲酒について厳しく指導してほしい。	11名
・補習授業を増やしてほしい。	8名
・今後とも子供達の為に社会の厳しさを教えて頂きたい。	8名
・HPを充実させてほしい。	6名
・人間関係を大切に作る姿勢を育てていただき、感謝している。	2名

4. 結果に対する各校の考察(抜粋)

・寮生活や実習実技等の教育内容に対して、将来役立つとの理解が得られている。
・海上技術学校生徒心得に基づき、指導方針を周知・推進した成果が得られている。
・資格取得等の教育制度に関する説明、指導について不十分と感じている保護者がいる。
・さらなる成績の向上のため、まずは基礎学力が不足する生徒から補習を実施する必要がある。
・資格取得のための補習は、充実しているとの高評価を得ているので、継続して実施する。

5. 考察を踏まえた各校の改善状況(抜粋)

・生徒個々について注意深く観察し、詳細な記載を通じて引き継ぎを行い、情報を共有する。
・「海上技術学校生徒心得」に基づき、指導方針(①規律厳守 ②掃除・応対の習熟 ③団体生活への適応 ④連帯感・一体感の養成)を周知・推進したことにより、生徒の指示不従と保護者からのクレームが激減した。指導力と信頼感が向上していると考えられる。
・重点目標【指導方針を周知する、充実した授業を行う等】を掲げ、教員の指導力向上に努める。
・就職関係の情報、HPの記事に関する要望に応えるよう、さらに努力する。
・就職に関する情報提供に関して、学級通信等でタイムリーに伝えるよう努めた。
・就職先の選定に当たり全ての求人票を公開し、三者面談を通じて納得できる志望先を選定した。
・1泊2日の体験学習の場を保護者に提供し、よりよい関係を構築することができた。
・2年生の保護者会に、試験的に航機実技・学校施設・寮居室見学を組み入れ、好評を得た。
・授業参観の際、保護者への配慮(土・日開催、廊下から見にくい、運動行事の参観等)を検討する。
・実力試験を実施し、基礎学力が不足していると思われる生徒に対して補習を実施した。

平成23年度海事関連企業への就職率

校名	卒業 者数	乗進 船 実学 習 科者	進学等		就 職 希 望 者	海 事 関 連 企 業 者	そ の 他 企 業	就 合 職 者 の 計	就 職 未 定 者	海 事 関 連 企 業 率	
			大 学 等	そ の 他							
小樽校	32名	12名	6名	2名	24名	22名	2名	24名	0名	91.7%	
館山校	38名	21名	9名	1名	28名	26名	0名	26名	2名	92.9%	
唐津校	40名	28名	6名	0名	34名	34名	0名	34名	0名	100%	
口之津校	25名	19名	3名	0名	22名	22名	0名	22名	0名	100%	
小計	135名	80名	24名	3名	108名	104名	2名	106名	2名	96.3%	
宮古校	43名	—	3名	0名	40名	39名	0名	39名	1名	97.5%	
清水校	108名	—	4名	1名	103名	99名	1名	100名	3名	96.1%	
波方校	92名	—	3名	0名	89名	89名	0名	89名	0名	100%	
小計	243名	—	10名	1名	232名	227名	1名	228名	4名	97.8%	
海上 技 術 大 学 コ ー ス 校	航海 ・ 機関	14名	—	0名	0名	14名	14名	0名	14名	0名	100%
	航海専修 ・ 機関専修	10名	—	0名	1名	9名	9名	0名	9名	0名	100%
小計	24名	—	0名	1名	23名	23名	0名	23名	0名	100%	
合計	402名	80名	34名	5名	363名	354名	3名	357名	6名	97.5%	

※本科就職率：平成22年度本科卒業生及び
平成23年度乗船実習科修了者が海事関連企業に就職した率

就職に関する取組

1. 船社等に対する取組

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	宮古校	清水校	波方校	海大	本部	合計
船社等訪問	50社	50社	77社	110社	40社	26社	85社	61社	24社	523社
船社説明会に参加	4回	2回	1回	2回	6回	5回	2回	1回		23回
船社等との懇談会	6回	25回	6回	4回	21回	4回	6回	0回	5回	77回

* その他の取組として、本部が業界団体等への直接説明を9回実施

(1) 求人依頼発送

* 本部が一括して求人依頼を実施し、529社へ発送

- ・道内の会社は直接訪問し、求人依頼 (小樽校)
- ・生徒より、資料請求や船社訪問等の要望があった船社へ積極的に連絡 (唐津校)
- ・関係各社に対して年賀状を送付し、生徒の就職も含め学校教育活動への協力を要請
- ・卒業生を継続的に雇用している船社等へ就職情報の提供と新卒・既卒学生への求人依頼を電話で実施 (波方校)

(2) 海事関連企業の学校訪問

清水校：23社 波方校：40社

2. 学生に対する取組

(1) 就職資料

- ・卒業生が来校した際に就職先の会社の状況等を在校生に説明 (小樽校)
- ・いつでも情報に目を通すことができるよう、就職情報を進路指導室・職員室前廊下へ掲示 (小樽校)
- ・パソコンでの船社情報調査をするよう生徒へ指導 (口之津校)
- ・会社案内が自由に閲覧できるよう図書室へ就職情報コーナーを設置 (唐津校)
- ・求人情報については2セット製本して教室へ設置 (唐津校)
- ・会社情報を自由に検索できるよう、パソコン4台を寮娯楽室へ設置 (宮古校)
- ・求人票や船・海事関連の冊子等を寮娯楽室の本棚へ設置 (宮古校)

(2) 面接指導

- ・就職試験報告書を参考に面接練習を実施
- ・会社訪問、面接試験の心構え、履歴書の書き方等を記載したマニュアルを作成し、指導・実践 (宮古校)
- (波方校)

(3) 会社訪問・体験

- ・夏期休暇を利用し、内航船乗船体験や職場体験(フェリーでアルバイト)、船社訪問を実施 (小樽校)
- ・自己アピール練習の機会を設けるとともに就職意識の向上を図り、生徒による船社訪問を実施 (唐津校)
- ・不景気による採用控えを考慮して早期より会社訪問を実施 (海大)

(4) 面談実施・就職意識の向上

- ・保護者も納得した就職活動を行えるよう、進路に向けた三者面談を実施 (小樽校)
- ・二者面談を繰り返し行い、本人の意思確認、就職指導を実施 (宮古校)
- ・就職意識の向上を図り、1年生の早い段階から就職ガイダンスを実施 (清水校)
- ・1年生は7、12、3月に、2年生は7月に就職希望先調査を実施 (波方校)
- ・就職意識を高めて早めの就職活動を促すため、求人票の一覧表を1年生の教室へ掲示 (波方校)
- ・就職意識を向上させるため、1年生全員をセミナーへ参加 (海大)

(5) 就職試験対策

- ・タグボート会社より要望の多い「第一級海上特殊無線技士免許」取得のための講習を実施 (館山校)
- ・補講実施回数が航機ともに100回、補講延べ時間が航機ともに100時間 (口之津校)
- ・船社の求める船員としてふさわしい資質の涵養のため、生活事項を重点的に指導
- 朝の挨拶運動、清掃活動、授業・実技・実習とクラブ活動における態度教育等
- ・1年生にSPI[®]試験を実施 (清水校)
- ・「内航船員になるためのセルフチェックシート」で船種、就労体制等に係る自己分析を行いミスマッチを防止 (清水校)

* SPI(Synthetic Personality Inventory)は就職の採用選考テストで使用される適正検査の一つ

意見交換会の実施

平成23年度 意見交換会実施(主催)数：30回

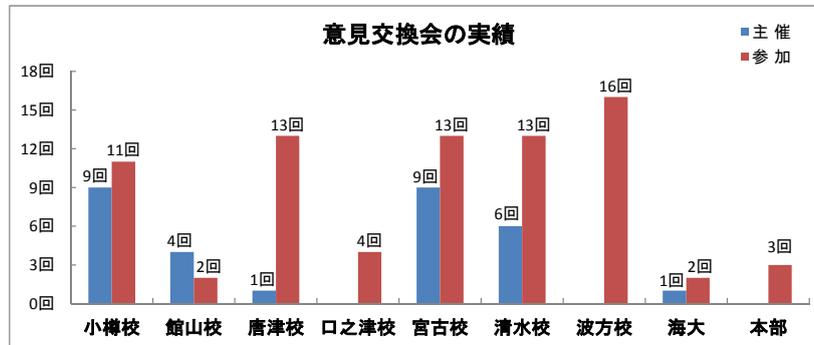
意見交換会実施数

○ 本科

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	小計
主催	9回	4回	1回	0回	14回
参加	11回	2回	13回	4回	30回
計	20回	6回	14回	4回	44回

○ 専修科・海技専攻課程

	宮古校	清水校	波方校	海大	小計	本部	合計
主催	9回	6回	0回	1回	16回	0回	30回
参加	13回	13回	16回	3回	45回	3回	78回
計	22回	19回	16回	4回	61回	3回	108回



〔相手方〕内航船社や航海訓練所等

〔内容〕海運業界の現状、就職関係、教育関係

〔教育等への反映〕

船社におけるニーズ(船社が求める人物像等)を把握した上で、教育・訓練を実施。また、就職指導にも反映

平成23年度教職員研修の実績

1. 教員

研修名	開催場所	日数 (日)	人数 (名)	区分
内航船乗船研修	「双星丸」(邦洋海運)	7	1	外部
	「大建丸」(イノガストランスポート)	4	1	外部
平成23年度第1回ファースト・ステップ研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	2	内部
平成23年度第2回ファースト・ステップ研修	海技教育機構本部(静岡県)	3	2	内部
ミドル・ステップ研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	5	内部
新指導課長・学生課長研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	5	内部
新教務課長研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	3	内部
平成23年度管理職者・新管理職者研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	8	内部
平成23年度管理職者・新管理職者研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	4	内部
海技教育財団ホームページ研修(基礎編)	αラーニングセンター水道橋(東京)	2	7	外部
平成23年度小型実技教員初任研修	国立清水海上技術短期大学校(静岡県)	3	6	内部
平成23年度小型実技教員初任研修	国立清水海上技術短期大学校(静岡県)	3	6	内部
平成23年度小型学科教員初任研修	国立唐津海上技術学校(佐賀県)	3	3	内部
平成23年度小型実技教員再研修	国立館山海上技術学校(千葉県)	2	3	内部
平成23年度小型実技教員再研修	国立唐津海上技術学校(佐賀県)	2	2	内部
平成23年度小型実技教員再研修	国立清水海上技術短期大学校(静岡県)	2	2	内部
機関科教育技術研修(アーク溶接、ディーゼル機関開放復旧作業)	国立清水海上技術短期大学校(静岡県)	4	7	内部
合計(延べ人数)			67名	

2. 事務員

研修名	開催場所	日数 (日)	人数 (名)	区分
平成23年度第1回ファースト・ステップ研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	2	内部
平成23年度管理職者・新管理職者研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	2	内部
平成23年度管理職者・新管理職者研修	海技教育機構本部(静岡県)	2	2	内部
平成23年度人事担当課長研修	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	2	1	外部
平成23年度行政スキル「基礎」研修	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	5	1	外部
平成23年度企業会計「基礎」研修	国土交通大学校柏研修センター(千葉県)	12	1	外部
平成23年度独立行政法人会計基準講習	海技教育機構本部(静岡県)	2	13	内部
「給与実務研修会(諸手当関係)」	日本私立学校振興・共済事業団講堂(東京)	1	1	外部
海技教育財団ホームページ研修(基礎編)	αラーニングセンター水道橋(東京)	2	3	外部
平成23年度評価・監査中央セミナー	中央合同庁舎第2号館 講堂(東京)	2	1	外部
パワハラ・セクハラ防止講座	静岡市商工会議所(静岡県)	1	2	外部
合計(延べ人数)			29名	

外部研修人数	19名
内部研修人数	77名
合計	96名

本科及び専修科への応募状況

○ 本科

学 校	養成定員 (名)	応募者数(名)		応募倍率(倍)		入学者数(名)	
		23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度
小 樽 校	30	71	65	2.4	2.2	29	36
館 山 校	30	96	93	3.2	3.1	36	34
唐 津 校	30	108	77	3.6	2.6	43	42
口 之 津 校	30	68	74	2.3	2.5	33	36
小 計	120	343	309	2.9	2.6	141	148

○ 専修科

学 校	養成定員 (名)	応募者数(名)		応募倍率(倍)		入学者数(名)	
		23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度
宮 古 校	40	67	55	1.7	1.4	43	43
清 水 校	110	232	237	2.1	2.2	112	111
波 方 校	80	221	272	2.8	3.4	90	89
小 計	230	520	564	2.3	2.5	245	243

合 計	350名	863名	873名	2.5倍	2.5倍	386名	391名
-----	------	------	------	------	------	------	------

各校の広報活動に関する取組

1. **中学校及び高等学校訪問…2,933校**(中学校:1,678校 高校:1,255校)
 - ・主要学習塾へ訪問し、PR及び情報交換を実施
 - ・春と秋の2回中学校へ訪問し、なるべく訪問する教師を同じにして印象アップ (小樽校)
 - ・時期に応じた内容説明により、同じ担当者でも新鮮な印象を持てるよう工夫 (小樽校)
 - ・専修科PRのため高校へ訪問 (口之津校)
 - ・レンタカーを利用して四国圏内の学校訪問を効率化 (波方校)
2. **学校説明会への参加…41回**(本科及び専修科)
 - ・学校の要請により教員を派遣
 - ・その際、直接面談を行った生徒は出願する可能性が高いため、遠方の学校からの要請でも学校説明会に参加。
3. **雑誌等への掲載回数…292回**(本科及び専修科)
 - ・進学(進路)情報誌への掲載
4. **学校案内送付…34,133箇所**
 - ・在校生が帰省する際、母校訪問・パンフレット配布を依頼 (唐津校)
 - ・九州の2校が連携し、両校の募集関係資料を同封 (口之津校)
5. **体験入学・オープンキャンパスの実施…30回**(本科及び専修科)
 - ・オープンスクールや体験入学参加者のアテンドを生徒・学生が担当
 - ・体験入学の内容を複数回参加しても飽きさせないよう工夫
 - ・オープンスクールや体験入学の際、校内練習船、カッター等での体験乗船を実施
6. **その他**
 - ・公共交通機関に生徒募集のポスター等広告の掲示を依頼
 - ・実際の乗船実習の訓練状況を理解してもらうため、航海訓練所練習船寄港時にオープンキャンパスや学校説明会を実施
 - ・小学生を対象に、体験乗船・施設見学・ロープワーク等の体験学習を実施 (小樽校)
 - ・出身校へのフォローアップとして、卒業生の出身中学へ就職先等を記載した卒業報告を送付 (小樽校)
 - ・高校の進路指導が早期化の傾向にあったため、参加者へ十分な検討時間を与えられるよう春休み中に学校説明会を実施 (唐津校)
 - ・総合的な広報活動により、個人による資料請求が今年度の目標数を達成 (清水校)
(目標1,100件、実績1,146件 昨年度比11.4%)
 - ・短期大学校へ出張し、海大についての説明を行い応募者増加を図るとともに特別講義を実施 (海大)
 - ・ホームページで合格発表を実施して、受験者への利便性を考慮 (海大)

平成23年度広報活動の実績

○ 本科

	学校訪問(校)		学校説明会 (回)	新聞・ 雑誌等 (回)	学校案内 (箇所)	体験入学・ オープン キャンパス(回)	体験航海 (回)
	中学校	高校					
小樽校	※①646	0	5	15	2,391	3	6
館山校	350	0	0	5	2,986	6	6
唐津校	397	0	7	116	3,271	2	※②22
口之津校	285	4	0	115	5,480	2	4
小計	1,678校	4校	12回	251回	14,128箇所	13回	38回

※①小樽校の中学校訪問数646校については、春秋の2回訪問した学校も含めた延べ訪問数である。

※②唐津校の体験航海数22回については、モーターボートでの体験航海14回を含む。

○ 専修科・海技専攻課程

	学校訪問(校)		学校説明会 (回)	新聞・ 雑誌等 (回)	学校案内 (箇所)	体験入学・ オープン キャンパス(回)	体験航海 (回)
	中学校	高校					
宮古校	0	410	12	6	2,335	3	※③0
清水校	0	415	11	11	6,638	6	4
波方校	0	426	6	18	4,085	5	7
海大	0	0	0	6	6,947	1	2
小計	0校	1,251校	29回	41回	20,005箇所	15回	13回

※③宮古校は、震災により練習船をはじめ舟艇類が被災し、体験航海は実施できなかった。

合計	1,678校	1,255校	41回	292回	34,133箇所	28回	51回
----	--------	--------	-----	------	----------	-----	-----

平成23年度研究項目の一覧

[重点研究(平成22年度から)]

類	研究テーマ名	研究期間※
E	海技者育成における教育・訓練資機材のあり方に関する研究	H22.4～H26.3
E	船員教育の高機能化に関する研究	H22.4～H26.3

[一般研究(前年度からの継続研究及び平成23年度新規研究)]

類	研究テーマ名	研究期間※
E	船用機関士のシステム操作におけるヒューマン・エラーに関する研究	H20.4～H24.3
F	海事政策と異文化理解に関する研究～アメリカ文化の変容と「海洋」	H20.4～H24.3
G	海事英語における船の動静の描写についての一研究	H20.4～H24.3
E	船舶の機関システムの保守管理に関する調査研究	H21.4～H24.3
F	海上交通安全法に関する一考察	H22.4～H25.3
C	GPSの信頼性に関する研究	H22.4～H25.3
A	船橋当直における航海情報の有効性	H22.4～H25.3
C	熱応力による船用機関の損傷に関する研究	H22.4～H25.3
D	分析機器を利用した海洋環境教育に関する研究	H22.4～H25.3
C	湾内タグボートの安全に関する研究	H23.4～H26.3
A	操縦者の立場から見たAISの活用のフォローアップ検証	H23.4～H26.3
F	水先人の専門家としての法的責任	H23.4～H26.3
F	国際法の違法性	H23.4～H26.3
E	旅客船退船における乗船者の脱出に関する基礎的研究	H23.4～H26.3
E	チーム意識醸成に関する研究	H23.4～H26.3
D	燃料電池発電システムの船舶電源への導入に関する研究	H23.4～H26.3
E	船用エンジニアリング教材の開発に関する研究	H23.4～H26.3
B	機関室巡回ロボットに関する研究	H23.4～H26.3

※研究期間は、重点研究は4年。一般研究は原則3年以内とする。

[共同・受託研究]

相手先	研究テーマ名
横浜ゴム株式会社	2船体操船及び係留監視システム
社団法人日本船長協会	操船シミュレータにおける調査研究
大阪大学大学院工学研究科	気液界面積濃度に関する研究

<研究の分類>

- A: 船舶の運航技術に関する研究(航海系)
- B: 船舶の運航技術に関する研究(機関系)
- C: 船舶の安全性・信頼性に関する研究
- D: 海洋汚染等船舶の運航に関して発生する環境問題に関する研究
- E: 船員の教育訓練に関する研究
- F: 船員政策、海事法規、海事海運経済に関する研究
- G: 海事思想の普及に関する研究

【平成23年度研究実施】

- 重点研究：2件
(内新規 0件)
- 一般研究：18件
(内新規 9件)
- 共同・受託研究：3件
(内新規 3件)

平成23年度研究発表の一覧

No.	発表タイトル	発表形式	実施日	レベル
1	未発達領域における気液二相流のボイド率と気液界面積濃度分布に関する研究	国内学会講演発表	H23.6.24	L3
2	Analysis on Turbulence Structure and Void Fraction Distribution in Gas-Liquid Two-Phase Flow under Bubbly and Churn Flow Regime	国際学会講演発表	H23.7.26	L2
3	垂直上昇気液二相流の未発達領域におけるボイド率と気液界面積濃度の発達	国内学会講演発表	H23.8.8	L3
4	Possibility of Engine-room Team Management for Marine Engineers	国際学会講演発表	H23.9.22	L2
5	The Advancement on the Reliability of Radar Information -Automatic Removable Algorithm of False Image-	国際学会講演発表	H23.11.3	L2
6	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal in Inland Sea	学会論文 国内学会講演発表	H23.11.3	L1 L2
7	太陽電池、燃料電池、及びガスタービン発電機の停泊中の船舶への利用に関する基礎研究	国内学会講演発表	H23.9.22	L3
8	Basic Study on the Application of the System Combined Photovoltaic Power Generation, Fuel Cell, and Gas Turbine Generator to Vessels on the	国際学会講演発表	H23.10.19	L2
9	船舶機関士に対する効果的なガス溶接技能の習得に関する研究	国内学会講演発表	H23.5.24	L3
10	Analysis of Operation Process of PC Based Engine Room Simulator	国際学会講演発表	H23.9.23	L2
11	Study on Brittle Fracture of Cast Iron Induced by Thermal Stress	国際学会講演発表	H23.10.19	L2
12	船用補助ボイラの水質管理基準- JIMEガイドラインの改定案	国内学会講演発表	H23.5.24	L3
13	2010年におけるマリンエンジニアリング技術の進歩	技術資料	H23.7	L4
14	WATER QUALITY CONTROL OF AUXILIARY BOILERS OF RECENT OCEANGOING SHIPS- For Log Sheet Review and Standardization of Water Analysis	国際学会講演発表 (査読論文)	H23.10.20	L1
15	STABLE CHLORINE ISOTOPE STUDY OF MARTIAN SHERGOTTITES AND NAKHLITES; WHOLE ROCK AND ACID LEACHATES AND RESIDUES	国際学会講演発表	H23.8.12	L2
16	水先人の民事免責-水先約款免責条項の現代的意義と妥当性-	学会論文 国内学会講演発表	H24.3	L1 L3
17	調査捕鯨妨害に関する一考察 -国際法における違法性と妥当性-	国内学会講演発表	H24.5.27	L3
18	便宜置籍船の法構造とその問題点	研究調査報告	H25.3	L4
19	船員の静電気防止具着用に関する基礎的研究	国内学会講演発表	H24.10.13	L3
20	コンラッド研究欧州紀行から一ある作家が垣間見た日本	講演発表	H24.7.1	L4
21	Joseph Conrad's Interest in Japan	学会論文 国際学会講演発表	H24.7.16	L1 L2
22	港内タグボートの安全性に関する研究	学会論文 国際学会講演発表	H23.5.26	L1 L3
23	The Propagation Characteristic of DGPS Correction Data Signal in Japan Propagation Characteristic near Big Bridge-	国際学会講演発表	H24.2.1	L2
24	Study on Thermal Stress-Induced Brittle Fracture of Cast Iron	学会論文 国際学会講演発表	H24.3.1	L1 L3
25	Study on Simulator of Marine Engine System and Thermal Stress-Induced Fracture of Engine Parts	学位論文	H24.3.9	L1

発表形式	レベル	発表実績
査読付学会論文発表	L1	7
国際学会講演発表	L2	10
国内学会講演発表	L3	10
海技大学校研究報告等	L4	3
合計		30

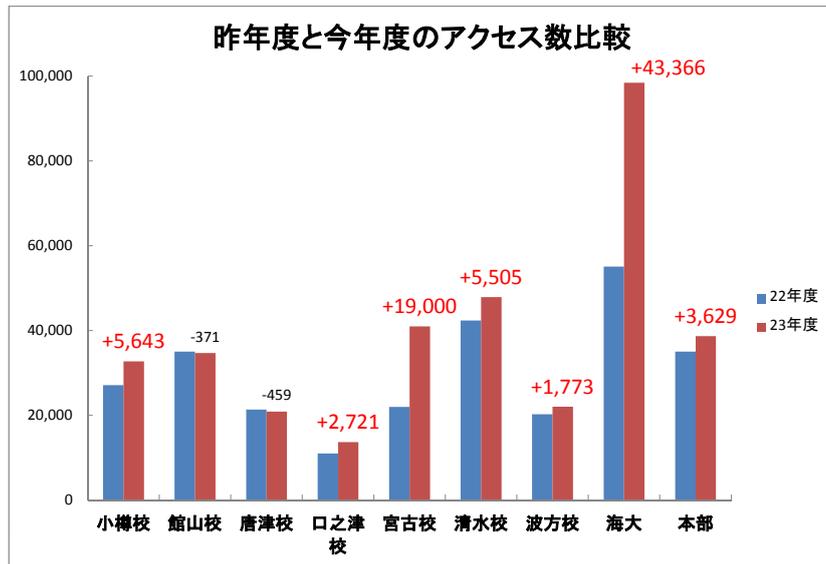
平成23年度 委員等派遣の実績

主催者	学会・委員会名	役職	委員
財団法人 海技振興センター	海技ネットワークの運営に関する専門委員会	委員	岩瀬 潔
	航海の安全に関する専門委員会	委員	岩瀬 潔
	海技情報連絡会議	委員	堀 晶彦
	海技情報連絡会議	委員	前田 潔
	教材等作成検討小委員会	委員	堀 晶彦
	水先人養成支援事業検討委員会	委員	大西正幸
	水先人養成支援事業検討委員会	委員	藤井照久
	STW調査検討に関する専門委員会	委員	引間俊雄
社団法人 神戸海難防止研究会	—	理事	加藤 学
	—	常任委員	岩瀬 潔
	—	常任委員	堀 晶彦
	—	常任委員	浅木健司
	大阪港新島建設等工事航行安全対策調査(フェニックス事業)委員会	委員	堀 晶彦
	大阪湾における台風・大型低気圧避泊に関する調査研究委員会	委員	浅木健司
	神戸中央航路等整備に伴う航行安全対策検討調査委員会	委員長代理	浅木健司
	大阪湾主航路工事に伴う航行安全対策検討調査委員会	委員	岩瀬 潔
社団法人 日本航海学会	大阪湾におけるAIS搭載船舶通航実態の調査研究委員会	委員	岩瀬 潔
	平成23年度船舶津波災害の減災対策に関する支援体制調査委員会	委員	堀 晶彦
	編集委員会	委員	岩瀬 潔
	編集委員会	委員	逸見 真
	論文審査委員会	査読委員	奥田成幸
	論文審査委員会	査読委員	堀 晶彦
	論文審査委員会	査読委員	浅木健司
	論文審査委員会	査読委員	山本一誠
	論文審査委員会	査読委員	増田憲司
	—	編集幹事	増田憲司
社団法人 日本マリンエンジニアリング学会	研究委員会	委員	岩瀬 潔
	研究委員会	委員	奥田成幸
	秋季講演会	実行委員長	岩瀬 潔
	—	理事	角 和芳
	エネルギーシステム研究委員会	副委員長	伊丹良治
	「第9回マリンエンジニアリング国際シンポジウム」組織委員会	委員	加藤 学
	「第9回マリンエンジニアリング国際シンポジウム」実行委員会	委員	角 和芳
	学会賞授賞審査委員会	委員	角 和芳
	研究運営委員会	委員	角 和芳
	研究委員長会議	委員	角 和芳
—	代議委員	角 和芳	
—	査読委員	伊丹良治	
社団法人 日本船舶海洋工学会	海洋教育推進委員会	委員	石倉 歩
社団法人 瀬戸内海海上安全協会	専門委員会	委員	岩瀬 潔
社団法人 日本船長協会	操船シミュレータ研修検討委員会	委員長	浅木健司
	船長・航海士のための通信機器の取扱い方に関する教育用DVD作成検討委員会	委員	奥田成幸
境港管理組合	境港(昭和南、昭和北、竹内南地区)入港船舶安全性検討委員会	委員	岩瀬 潔
財団法人 シップ・アンド・オーシャン財団	世界海事大学奨学生選考委員会	選考委員	引間俊雄
	WMU友の会ジャパンニューズレター編集委員	編集委員	引間俊雄
船員災害防止協会	船舶料理士登録試験委員会	委員長	松田賢栄
財団法人 日本海事協会	海技委員会	委員	引間俊雄
国土交通省	船員(海技者)の確保・育成に関する検討会	委員	鉦柄好利
東北運輸局	東北地方交通審議会	臨時委員	清水良周

13団体、延べ49名派遣

平成23年度ホームページアクセス数

ホームページの活用



本科

	小樽校	館山校	唐津校	口之津校	小計
22年度	27,113	35,057	21,372	11,000	94,542
23年度	32,756	34,686	20,913	13,721	102,076

専修科・海技専攻課程

	宮古校	清水校	波方校	海大	小計
22年度	22,000	42,374	20,259	55,086	139,719
23年度	41,000	47,879	22,032	98,452	209,363

	本部
22年度	35,057
23年度	38,686

	合計
22年度	269,318
23年度	350,125

宮古校被災への対応状況

平成23年3月11日
東日本大震災発生

艇庫・船艇に甚大な被害



○ 災害対策統括本部立ち上げ

支援等の対応を検討

○ 清水校内に宮古校仮校舎を設置

- ・ 施設、設備の共同使用
- ・ 入学式
- ・ 第1四半期教育業務
- ・ G.W.も授業、実習

○ 各方面から義援金等の支援

○ 当初の計画どおり 7月4日宮古にて授業再開

○ 宮古校の業務実績

- ・ 合格率 95.3%
- ・ 就職率 97.5%

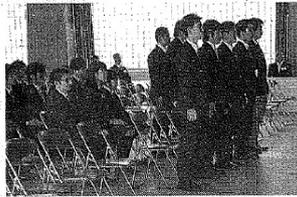


宮古校仮校舎の新聞記事

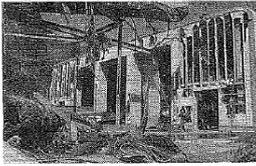
日本海事新聞

(平成 23 年 4 月 12 日 第 4 面)

宮古海上技術短大 清水の仮校舎で入学式



①入学式の模様
②全壊した宮古校の断壁



東日本大震災で被災した海技教
が押し寄せられ、校庭
まで津波が押し寄せ、カッター艇
まで全壊した。
船乗り43人
めざし43人
青根橋の国立宮古海上技術短期大
学校（宮古校）の入学式が7日、
仮校舎を備えた高橋町の国立清水
海上技術短期大学校（清水校）で
行われ、被災地出身の11人を含む
入学予定者43人を前に船乗りが
としてのスタートを切った。
宮古校では震災後に学生、教職
員が全員無事と確認されたが、津
波が発生した際には練習船「月山」
を撤去した。

東日本大震災

宮古の海胸に清水で再起

空き教室、船舶で授業



東日本震災の際、施設などに大きな被害があった内航船の船員養成機関「宮古海上技術短大」（宮古市）が今月から、静岡清水区の清水港に技術短大を借りて授業を開始した。被災地出身の学生も多く、不安を抱えながらも、仮の学びで将来に向けて勉学に励んでいる。

各地の船員養成機関を運営する海技教育機構（静岡市清水区）と宮古海上技術短大（以下、同校）は3月11日の地震で校舎の一部が損傷、津波によって港に停泊していた全長20メートルの練習船「一月山」が陸に打ち上げられ、海岸付近の船庫が全壊した。

震災時、校内には卒業式の準備をしていた学生や職員がいたが、素早く学校裏手の高台に上り難を逃れた。震災前日に大阪で乗船実習を終え、帰る途中だった学生についても職員が各地の避難所を訪ねるなどして、数日後に全員のが、震災後も辞退者はい無事が確認できたと言った。

現在は清水海上技術短大の空き教室と船舶のクワッドは津波によって授業を行い、学生が通っていたがきの山は着陸している。宮古へも帰ろうと古への帰郷予定は7月、にならば状態。清水 若狭出身、現在は夕日岡校で。3月下旬に「カー」船の乗組員にならなれた4級海士（さん）は「新しい勉強の機会が、学生を育てるため、清水へ行く」と決意したが、今は宮古に帰るつもりだ。2011年度は43（い）を前向い人が入学を決めていた。



津波を乗り越えて陸に打ち上げられた宮古海上技術短大の練習船「一月山」（海技教育機構提供）
清水海上技術短大の教室で授業を受ける学生。11日、静岡市清水区

卒業式、校内には卒業式の準備をしていた学生や職員がいたが、素早く学校裏手の高台に上り難を逃れた。震災前日に大阪で乗船実習を終え、帰る途中だった学生についても職員が各地の避難所を訪ねるなどして、数日後に全員のが、震災後も辞退者はい無事が確認できたと言った。